

横須賀市中小企業景況レポート

第26号（平成31年4月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoureport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：159社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査142社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成30年10～12月の景況感（調査時点 平成30年12月1日）
 今期・・・平成31年1～3月の景況感（調査時点 平成31年3月1日）
 次期・・・平成31年4～6月の景況感（ // ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期のDI値を記載

全業種の景況感は、前期の18Pから12P悪化し、【6P】となりました。

今期は、全ての業種で悪化しています。特に、建設業【12P】、不動産業【0P】は、それぞれ29P、17Pと大きく悪化しています。

次期については、不動産業で大幅な改善の見込みですが、卸・小売業は、厳しい状況が続く見込みです。

全業種の項目別でみると、ほとんどの項目で悪化していて、特に雇用人員は厳しい状況が続いています。

次期については、全ての項目で概ね横這いの見込みです。

昨年同期（平成30年1月～3月）の景況感比較は、「変わらない」が半数以上を占めています。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した値が DI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

良い (15P 以上)	やや良い (6 P~14P)	変わらない (△ 5 P~ 5 P)	やや悪い (△ 6 P~△14P)	悪い (△15P 以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期の DI 値を記載

(1) 製造業 景況感 【 13P <やや良い> ↗ 】 (前期比△7P)

前期と比べ、ほぼ横這いの状況ですが、雇用人員【△48P】は、引き続き厳しい状況にあります。次期は、売上額、収益が悪化すると見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・例年同月並みの受注は確保できているが、顧客数は増えず現状維持で精一杯になっている。販路の拡大が急務である。
- ・防衛省をはじめとした官公庁等が主要取引先となっているが、競業他社との価格競争は依然として激しく、利幅は縮小している。
- ・良い人材がいた場合には、採用を考えているため、ハローワークで求人を行っている。
- ・外国人を雇用したが、仕事への順応ができており、今春も2名採用予定である。


(2) 建設業 景況感 【 12P <やや良い> ↗ 】 (前期比△29P)

景況感に併せて、売上額【9P】が32Pと大幅な悪化となりました。収益【9P】、資金繰り【△24P】もそれぞれ10P、17P悪化しています。

次期は、全ての項目で概ね横這いですが、雇用人員は厳しい状況が見込まれています。

☆事業者の主な声☆


- ・秋の産業まつりで得た受注をこなし、堅調に売上を維持している。
- ・業界の高齢化により、後継者がいないため設備投資が進まない。
- ・消費税の駆け込み受注があるが、人員が不足しているため仕事を受けることができない。
- ・継続的に元請からの受注を確保しており、業況は安定している。材料費等の費用が上昇していることから、利幅は減少しており収益面の対策を要する。

(3) 卸・小売業 景況感 【 $\Delta 12P$ <やや悪い>  】 (前期比 $\Delta 10P$)

売上額【 $\Delta 22P$ 】は、11P悪化しています。他の項目については、ほぼ横這いです。次期は、厳しい状況ながらも多少の改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・地域に根付いた小規模スーパーとして経営しているが、大型店への顧客流出に加え、顧客の高齢化や地域衰退も進み、店舗売上は急激な減少が続いている。
- ・同業他社が廃業するケースが増加しており、廃業した業者からの引き継ぎにより取引先数は増加した。
- ・三笠ビル商店街など、下町の商店街は、車を持たない高齢者にとって使い勝手が良いせいか、賑わっている。

(4) 不動産業 景況感 【 $0P$ <変わらない>  】 (前期比 $\Delta 17P$)

景況の悪化に併せて、売上額【 $\Delta 34P$ 】、雇員人員【 $\Delta 25P$ 】、資金繰り【 $\Delta 17P$ 】は、それぞれ25P、17P、17Pの大幅な悪化となっています。

次期は、売上額に大幅な改善が見込まれていて、それに伴い収益も改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・仲介業は、比較的好調である。相続が絡む案件が増加傾向にある。
- ・高度経済成長期の時と違い、先行きが不安。リスクが高く、投資できないためビルの建て替えなどに踏み切れない。

(5) サービス業 景況感 【 $18P$ <良い>  】 (前期比 $\Delta 3P$)

売上額【15P】、収益【0P】は、それぞれ17P、12P悪化しましたが、雇員人員【 $\Delta 25P$ 】は、22Pと大幅に改善しました。

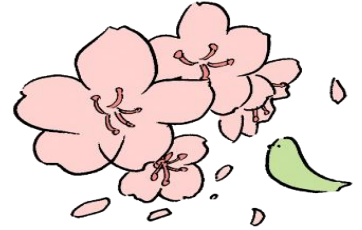
次期については、全ての項目で横這いの見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・日帰りのバスツアーは、以前は価格重視だったが、企画が良ければ価格が多少高くても受け入れられている。
- ・休日の宿泊は満室が続き、特に観光バスの立ち寄りなど団体客の予約が多く、売上増加となっている。
- ・派遣先企業から人員の引き抜きにあい、技術者の派遣で収益を上げている企業としては、優秀な人材を取られて苦しくなっている。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成30年10～12月の景況感（調査時点 平成30年12月1日）
 今・・・今期 平成31年1～3月の景況感（調査時点 平成31年3月1日）
 次・・・次期 平成31年4～6月の景況感（調査時点 平成31年3月1日）



業種別調査企業数(回答数)

(単位:社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	148	40	27	37	12	32
今期	159	38	33	41	12	35
次期	159	38	33	41	12	35

(単位:ポイント)

項目	業種			全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きました。																				
良い(A)	37	26	23	43	29	16	48	33	24	30	20	24	25	17	25	34	29	26			
変わらず	44	54	62	34	55	76	45	46	64	38	48	44	67	66	75	53	60	63			
悪い(B)	19	20	15	23	16	8	7	21	12	32	32	32	8	17	0	13	11	11			
DI値(A)-(B)	18	6	8	20	13	8	41	12	12	△2	△12	△8	17	0	25	21	18	15			
今-前/次-今	△12	2		△7	△5		△29	0		△10	4		△17	25		△3	△3				
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																				
好転(A)	34	23	21	33	29	16	52	33	24	24	10	15	8	8	25	41	29	29			
変わらず	46	54	61	44	55	68	37	43	64	41	58	53	75	50	67	50	57	60			
悪化(B)	20	23	18	23	16	16	11	24	12	35	32	32	17	42	8	9	14	11			
DI値(A)-(B)	14	0	3	10	13	0	41	9	12	△11	△22	△17	△9	△34	17	32	15	18			
今-前/次-今	△14	3		3	△13		△32	3		△11	5		△25	51		△17	3				
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																				
増加(A)	25	22	18	28	26	11	30	30	24	24	17	20	8	8	8	25	20	20			
変わらず	55	55	64	54	61	73	59	49	64	41	49	48	75	67	92	62	60	63			
減少(B)	20	23	18	18	13	16	11	21	12	35	34	32	17	25	0	13	20	17			
DI値(A)-(B)	5	△1	0	10	13	△5	19	9	12	△11	△17	△12	△9	△17	8	12	0	3			
今-前/次-今	△6	1		3	△18		△10	3		△6	5		△8	25		△12	3				
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きました。																				
多い(A)	1	5	4	0	5	3	0	6	6	3	2	2	0	0	0	0	9	6			
適正	59	55	57	52	42	50	56	49	49	65	64	66	92	75	67	53	57	60			
少ない(B)	40	40	39	48	53	47	44	45	45	32	34	32	8	25	33	47	34	34			
DI値(A)-(B)	△39	△35	△35	△48	△48	△44	△44	△39	△39	△29	△32	△30	△8	△25	△33	△47	△25	△28			
今-前/次-今	4	0		0	4		5	0		△3	2		△17	△8		22	△3				
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																				
余裕がある(A)	11	14	13	15	13	13	4	12	9	14	15	12	8	0	0	13	20	20			
支障がない	73	62	67	75	74	74	85	52	64	56	58	64	84	83	92	74	57	60			
苦しい(B)	16	24	20	10	13	13	11	36	27	30	27	24	8	17	8	13	23	20			
DI値(A)-(B)	△5	△10	△7	5	0	0	△7	△24	△18	△16	△12	△12	0	△17	△8	0	△3	0			
今-前/次-今	△5	3		△5	0		△17	6		4	0		△17	9		△3	3				

<参考> 昨年同期と現在の景況感比較 (回答140社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	22社	16%	30%
昨年と比べ「景況感」は変わらない	93社	66%	51%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	25社	18%	19%
DI値(A)-(B)		△2P	11P

